

# コードや配線器具の事故が多発しています

## こんな使い方していませんか？



コードを曲げたり  
収納時などに本体に巻きつける  
断線してショートします



許容電流を超えて使用する  
コードが過熱して発熱します



ほこりや水分が付いたままにする

素人修理をする  
修理は事業者など専門家に依頼してください

トラッキング現象が発生し発火します。定期的に清掃してください



コードを無理に引っ張ったり、踏みつけたりする  
断線してショートします

コードが熱い、変なにおいがする、コードに触れると電気が入ったり切れたりするなどの異常があった場合は、コードがショートする可能性がありますので、機器の使用を中止してください。

## 変質灯油を使用しないでください

- 変質灯油を使用すると、異常燃焼を起こして危険です。昨シーズンから持ち越した灯油、直射日光があたったり高温の場所で保管していた灯油は使用しないでください。
- 汚れた灯油や水の混じった灯油なども使用しないでください。
- 廃棄するときは、近くのガソリンスタンドや灯油販売店等に相談してください。



## リコール製品から事故が発生しています

お持ちの製品がリコール製品に該当していないか、NITE ホームページで確認してください  
<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>



写真はリコール製品の  
一部です

リコール製品は  
すぐに事業者へ  
連絡してね



- リコール製品に該当する場合は、直ちに使用を中止して、事業者へ必ず連絡してください。
- リコールを行っていた事業者が倒産している場合があります。該当する製品をお持ちの場合、直ちに使用を中止してください。



取扱説明書をよく読んで正しく使用しましょう



事故 ナイト いいね



## 石油ストーブの火を消さずに給油し、火災

### 事例

火災が発生し、2人が負傷した。(2012年1月 愛知県)

### 原因

石油ストーブの火を消さずにカートリッジタンクに給油した際、カートリッジタンクのふたの締め方が不十分だったために灯油がこぼれ、ストーブの火に引火したものです。



- 石油ストーブに給油するときは、火を消してください。カートリッジタンクのふたが完全に締まっているかどうか確認してください。
- ガソリンと灯油を間違えないでください。

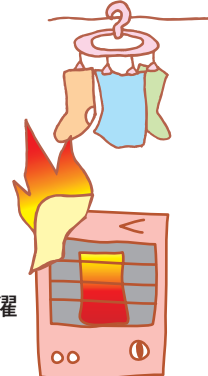
## 石油ストーブに洗濯物が落下し、火災

### 事例

石油ストーブをつけたまま外出したところ、火災が発生した。(2012年1月 北海道)

### 原因

石油ストーブの上で乾かしていた洗濯物が落下して火がついたものです。



- ストーブの上や周辺で洗濯物を乾かさないうでください。乾燥して軽くなった洗濯物が、上昇気流にあおられてストーブに落下することがあります。
- タオルや紙類など燃えやすい物を周辺に置かないでください。

## 電気ストーブに布団が触れ、火災

### 事例

電気ストーブを使用中、火災が発生した。(2012年1月 京都府)

### 原因

電気ストーブをつけたまま寝てしまったため、布団が電気ストーブに触れて火がついたものです。



- 寝るときは、必ず電源スイッチを切ってください。寝返りをうったときに、布団や近くに置いていた毛布などがストーブに触れるとヒーターの熱で火がつくことがあります。

## 『故障中』の電気ストーブで火災

### 事例

故障中の電気ストーブにかけていたバスタオルが焼ける火災が発生した。(2012年3月 兵庫県)

### 原因

電源スイッチを入れてもヒーターがつかなかったため、故障と思い、バスタオルをかけて外出したところ、突然ヒーターが点灯してバスタオルが過熱したものです。



- 「故障中」や「エラー表示」が出る状態で無理に使用を続けたことによる事故も多く発生しています。
- 製品に故障や異常がある場合、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店などに相談してください。

## カセットボンベのガス抜き中に火災

### 事例

台所でカセットボンベのガス抜き中に火災が発生した。(2011年12月 兵庫県)

### 原因

カセットボンベのガス抜きを石油ストーブの近くで行っていたため、漏れたガスにストーブの火が引火したものです。



- カセットボンベやスプレー缶は、中身のガスを使い切ってから捨ててください。
- カセットボンベは振ってみてシャカシャカと音がしたら、ガスが残っています。火が消えるまで使ってから捨てましょう。
- 廃棄は、各自治体の処理方法に従ってください。

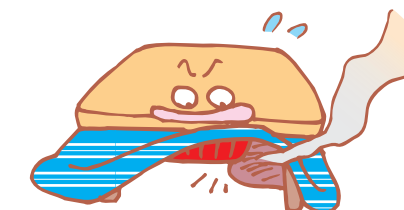
## 電気こたつの掛け布団から出火し、火災

### 事例

使用中の電気こたつとその周辺を焼く火災が発生した。(2012年4月 兵庫県)

### 原因

電気こたつの中に掛け布団を押し込んで使用していたため、ヒーターユニットの保護カバーに触れて、焼けたものです。



- 電気こたつの中にこたつ布団や座いす、座布団などを押し込まないでください。
- 洗濯物を乾かして火災になった事例もあります。
- 電源コードをこたつの脚で踏んだり、折り曲げたりすると断線の原因になるので注意してください。

## スプレー缶が破裂し、火災

### 事例

石油ファンヒーターの近くから出火し、住宅を全焼して1人がけがをした。(2013年1月 神奈川県)

### 原因

石油ファンヒーターの前に置いていたスプレー缶がファンヒーターの温風で過熱され、内圧が上昇して破裂し、可燃性ガスにファンヒーターの火が引火したものです。



スプレー缶をファンヒーターの前に置いていたところ、熱で膨張して噴き出たガスに引火しました。(再現実験)



- カセットボンベやスプレー缶などをストーブやガスこんろなどの熱源の近くに置かないでください。過熱されると内圧が上昇して破裂・爆発し、噴き出た可燃性ガスに引火して危険です。

## 水槽の近くから出火し、火災

### 事例

水槽の近くから出火する火災が発生した。(2012年3月 東京都)

### 原因

水槽の水を入れ替えるとき、水槽から取り出した水槽用ヒーターの電源を切り忘れしました。通電状態で放置したため、周囲にあった可燃物が焼けたものです。



- ヒーター管を水槽から出すと、空だき防止機能がついていても、装置が作動する温度になるまで加熱し続けるため危険です。
- 水の交換時は電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ヒーター管が水面から出ないように正しく設置してください。

## ゆたんぽで低温やけど

### 事例

ゆたんぽを使用していたら、低温やけどを負った。(2011年12月 千葉県)

### 原因

長時間、ゆたんぽに触れていたため、低温やけどを負ったものです。

温かいと感じる程度の温度でも、長時間にわたって同じところの皮膚に触れていると、「低温やけど」になります。※44℃では3~4時間、46℃では30分~1時間、50℃では2~3分で「低温やけど」になるといわれています。※出典：山田幸生「低温やけどについて」製品と安全第72号、製品安全協会



- ゆたんぽや電気あんかは、厚手のタオルや専用のカバーなどで包んでも低温やけどを負うことがあります。就寝前に布団から出し、さらにスイッチを切ってください。
- 「低温やけど」は、暖房器具などのほか、ノートパソコンや携帯電話などでも発生していますので、長時間、皮膚の同じ部位が触れないようにしてください。また、違和感や熱いと感じたら、直ちに使用を中止してください。

## 除雪機にはさまれ死亡

### 事例

使用中の除雪機と雪の壁の間にはさまれて死亡した。(2012年2月 北海道)

### 原因

バックをするときに運転操作を誤ったため、除雪機と雪の壁にはさまれたものです。



- 安全装置は常に作動する状態で使用してください。
- 除雪機に詰まった雪を取り除くときは、エンジンが完全に止まったことを確認してから雪かき棒などで行ってください。
- 使用時は周囲に人がいないか確認してください。